

同窓会だより 平成26年度第9号

夢追塾同窓会

ガリ版作品展 & 体験会報告

7月23日(水)～29日(火)北九州市立生涯学習総合センターでガリ版作品展&体験会を行ないました。滋賀県の堀井親子がエジソンの印刷機をヒントに開発した謄写版(通称ガリ版)は、昭和50年代までは学校や役所に必ずありました。ガリ版は電気を使わず軽くて便利なので日本中に普及し、夢追塾同窓会の皆さんもほとんどの方がお世話になったと思います。

ガリ版の歴史は100年以上あり、日清戦争で軍に大量に採用されてからは日本中に広がりました。第2次世界大戦後は、日本の活版印刷業界は戦災により壊滅状態になったため、当時の印刷物はほとんどがガリ版で印刷されていました。

ガリ版の全盛期にガリ版講師として活躍し、今年3月に亡くなった平川氏(S5 日田市生まれ)と4年前に亡くなった岡部氏(S2 八幡東区生まれ)は、多くの生徒を指導しガリ版の優れた作品を残しています。字だけではなく、絵も描けるガリ版の魅力を多くの人に知ってもらいたいと思い展示会を開催いたしました。

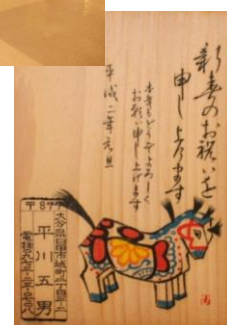
※作品展示会に合わせて別室でガリ版体験会も開催し、たくさんの方に参加していただきました。
※大分県日田市から来場された平川氏の長男ご夫妻からは「おやじの供養になりました」とお礼の言葉をいただきました。

※ガリ版に関係した多くの方が亡くなっていますが、ガリ版を始める若者もいます。熊本県ではガリ版の技術を継承した佐藤さんが素晴らしい作品を制作しています。私の更なる夢は「ガリ版を世界遺産に」
※夢追塾同窓会の多くの方々の協力と参加で無事に終了いたしました。誠にありがとうございました。

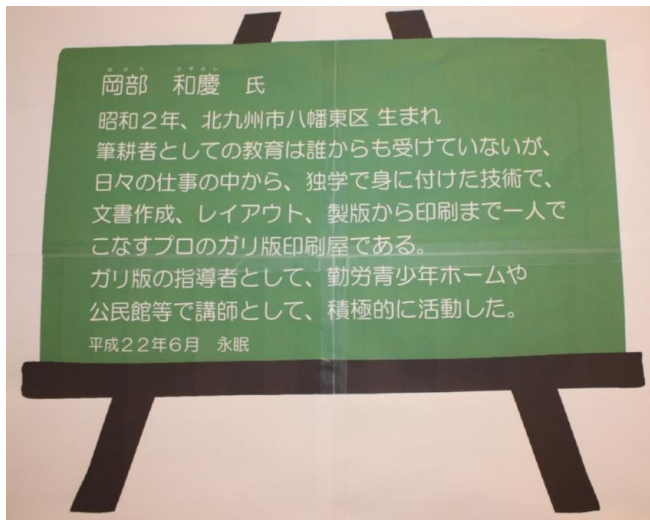
(報告:3期生 小松良子)



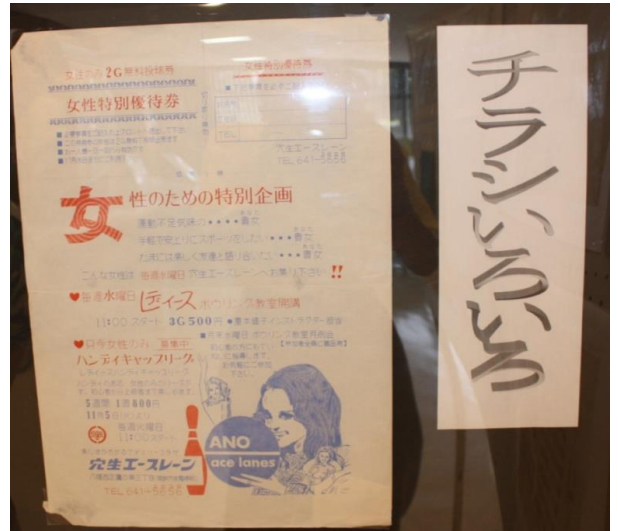
多色刷りハガキの例



日田杉に印刷されています



北九州で活躍した岡部氏



懐かしい穴生エースレーンのチラシ



【ガリ版体験会】



「ヤスリ板」の上に「蠟原紙」を載せ「鉄筆」で文字やイラストを書く。



「蠟原紙」を印刷器具（小松さん手製）にセットする。



騰写インクをローラーで塗る。



作品の出来を吟味し、2枚目の騰写に反映